

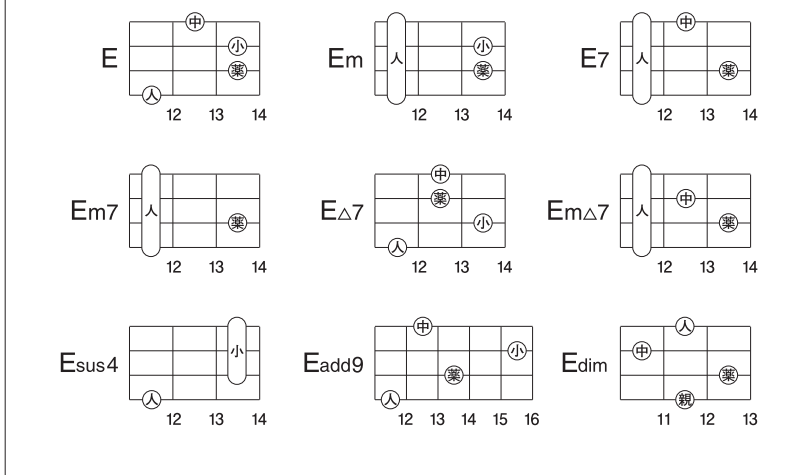
**注意点1**

**理論**

**覚えた方が絶対オイシイ  
コード・ポジションを確認!**

コード・アルペジオは、ベースでもギターと同じように演奏することができる。コードを押さえる【註】ため左手が大変だが、コードの仕組みや響きが覚えらるるので、ぜひ挑戦してもらいたい。コードは、ロー・ポジションで押さえると音が濁るため、基本的にハイ・ポジションで押さえた方がよいだろう(ルート音のみ開放弦にするのはアリだ)。図1に基本的なコード・ポジションを示したので、実際に弾いてほしい。ルート音はEの場合、4弦開放を使ってもよいが、右図ではほかのコードへ移行しやすいように4弦12フレットを使用している。左手のセーハをうまく使って、コードを正確に押さえよう。

図1 コード・ダイアグラム

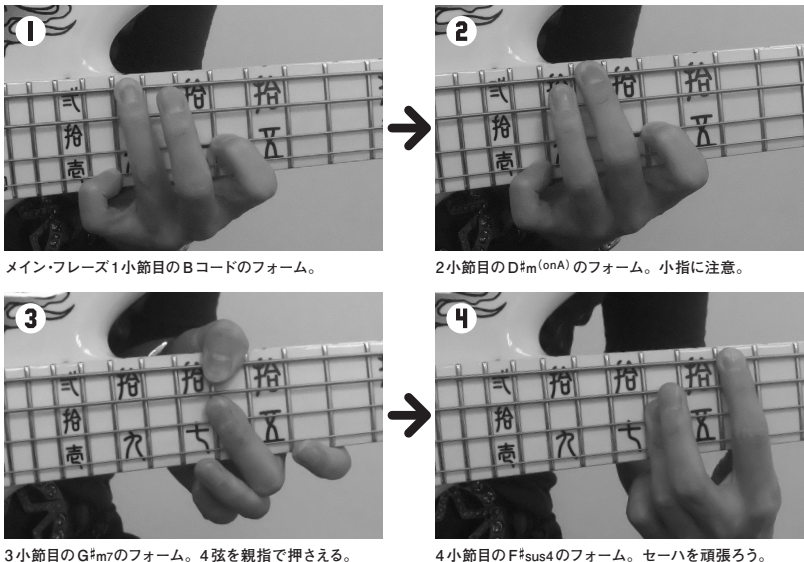


**注意点2**

**左手**

**先の動きを意識しながら  
コードをチェンジせよ!**

メイン・フレーズは、4弦を右手親指、2弦を人差し指、1弦を中指に割り当てた3フィンガーで演奏する。まず右手を安定させることが重要なので、肘をボディに付けて、腕がぶれないようにしましょう。また、コード・アルペジオになるため、ピッキングした音を伸ばし続けることが大切だ。1小節目では、4弦19フレットを薬指、2弦16フレットを左手人差し指、1弦20フレットを小指で同時に押さえる。ストレッチと持久力が必要になるので、ネック裏の親指の位置などを調節して、頑張って押弦しよう。コード・チェンジは、常に先のポジションを意識しながら、左手を動かすことよ(写真①~④)。



① メイン・フレーズ1小節目のBコードのフォーム。

② 2小節目のD#m(onA)のフォーム。小指に注意。

③ 3小節目のG#m7のフォーム。4弦を親指で押さえる。

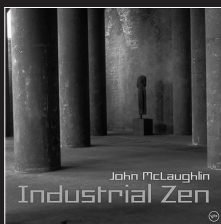
④ 4小節目のF#sus4のフォーム。セーハを頑張ろう。

~コラム22~

**将軍の戯れ言**

現在のベース・シーンには、マシュー・ギャリソンやアドリアン・フェローといった、最新鋭の4フィンガー・テクニックを使って信じられない速弾きを披露するベーシストがいる。彼らは、ベース本体に“フィンガー・ランプ”という指置きを取り付けて、ボディと弦の間隔を狭くするという工夫を施していることが多いようだ。こうすることで右指が弦の下に深く入り込まなくなるため、ピッキング動作がスムーズになり、高速化が図れる。彼らとはタイプが異なるが、ギターのような華麗な速弾きを披露するドミニク・ディ・ビアッツァもすさまじいベーシストだ。ぜひチェックしてほしい。

**著者・MASAKI、かく語りき  
最新4フィンガー・ベーシスト編**



**ジョン・マクラフリン**  
『インダストリアル・ゼン』  
マシュー・ギャリソンとアドリアン・フェローの両名が参加し、躍動感溢れるフュージョン・サウンドを聴かせる1枚。



**ジョン・マクラフリン・トリオ**  
『Que Alegria』  
ジョン・マクラフリンが、ドミニク・ディ・ビアッツァを迎えて制作した秀作。内省的で奥が深い音世界を構築している。

【コードを押さえる】 ベースでコードを押さえる機会はあまりないが、バンドサウンド全体に厚みを加えることができるので、ぜひマスターしたい。コード音をきちんと押さえて、ミストーンに注意しよう。